岡山畜産便り

2018 4

平成30年4月25日発行　第六十九巻第三号

真庭市　　新田　善洋さん（養豚）

もくじ

〔酪大だより〕
第52期生が卒業しました。
（公財）中国四国酪農大学校 …… 1

〔県民局だより〕
備中県民局管内の畜産クラスター取組状況
～生産拡大と地域との共存を目指して～
備中県民局畜産第一班・畜産第二班 …… 2

〔家保のページ〕
労力低減に主眼を置いたワンショット過剰排卵
処置方法の検討
津山家畜保健衛生所 …… 4

〔技術のページ〕
新たな岡山県基幹種雄牛の紹介～兄弟でデビュー!～
岡山県農林水産総合センター畜産研究所
育種改良研究グループ …… 6

〔畜産現場の声〕
おいしい豚肉づくりを目指して～新田養豚の挑戦～
真庭市　新田　善洋 …… 8

〔畜産女性の声〕
雑　感
井家上　淑子（おかやまフォーベルネット会員）…… 9

〔ホットニュース〕
（有）カーライフフジサワが農林水産省生産局長賞を受賞
－第４回全国自給飼料生産コンクール－
（一社）岡山県畜産協会 …… 10
平成29年度耕畜連携推進研修会を開催しました。
（一社）岡山県畜産協会
株式会社卵娘庵にて農業高校生と交流会を開催しました！
（一社）岡山県畜産協会 …… 11
第53回豚枝肉共励会開催報告
岡山県養豚振興協会事務局

岡山県畜産関係者名簿 …… 12
岡山県農業共済組合連合会 …… 14
全農岡山県本部畜産部 …… 15
おかやま酪農業協同組合 …… 16
一般社団法人岡山県畜産協会 …… 17
岡山県畜産関係各種協議会 …… 18

〔お知らせ〕
肉用牛肥育経営安定特別対策事業の補填率が
平成30年度、８割から９割に引き上げられます … 19

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！

弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全てのステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダー品の設計や生産、飼料米の粉砕などの原料の加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のパイオニア
フタバ飼料株式会社
〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1
TEL 086-953-0832　FAX 086-953-1870
E-mail：futabashiryo.co.jp

GEA　ORION

酪農のすべてにソリューションを。

ORION TOTAL SOLUTION
牛群管理　搾乳システム　自動給飼
生乳冷却　糞尿処理

マルチボックス搾乳ロボット
mI ONE エムアイ ワン
搾乳システム

You Tube チャンネル【ORION for Dairy】▶

西日本オリオン株式会社
本　社：〒812-0006　福岡市博多区上牟田1-13-14　TEL.092-477-8480
営業所：岡山・津山・広島・瀬戸内・鳥取・出雲・大阪・福岡・大分・熊本・人吉・鹿児島・鹿屋・種子島・沖縄

〔酪大だより〕

第52期生が卒業しました。

公益財団法人中国四国酪農大学校

本校は、『経営感覚と確かな技術を持った人材の育成』『酪農を通じて地域に貢献できる人材の育成』『社会人としての基礎力を備えた人材の育成』の３つを教育理念に掲げ、実習を重視した酪農教育を行い、卒業後即戦力として働ける実践的な知識と技術を身につけた多くの人材を輩出してきました。

この春、第52期生23名（男子17名、女子６名）が卒業しました。就農・就職状況は、酪農後継者が３名、酪農新規就農１名、雇用就農が16名（うち酪農場11名、肉用牛農場５名）、農協１名、酪農ヘルパー１名、企業１名となっています。県外出身者５名を含む９名が岡山県内に就職しており、岡山県の畜産振興に繋がることを期待しています。

第52期生一同（卒業式写真）

第52期生は、平成28年４月、28名（男子19名・女子９名）が北は群馬、南は熊本から入学しました。元気で明るい雰囲気の学年で、講義中も元気に受け答えする学生が目立ちました。特に活発な女子が多く、人数が男子の半分程度にも関わらず女子の方が多いのではないかと感じさせるほどでした。その元気な姿はオハヨー乳業「晴れの国おかやま牛乳1000ml」の牛乳パックのパッケージ集合写真にもなりました。

おかやま牛乳のパッケージ写真

平成28年度中国ブロック農業大学校等意見発表会では、岡田美鈴さんが『酪農を身近な産業に』という表題で最優秀賞を受賞しブロック代表に選出され、全国大会では優良賞を受賞しました。発表したとおり、岡田さんは酪農と消費者の距離を縮めるという目標に向かって酪農教育ファームに就職します。一般消費者にとって、酪農が身近で当たり前の存在になるような取り組みを元気に進めてくれるでしょう。

また、この４月から地元愛媛県で酪農場を経営継承し、新規就農者として一歩を踏み出す学生がいます。彼の牧場には同級生のパートナーがその牧場運営を支えるために就職します。卒業後すぐに牧場経営することを決意した彼らの決意を応援するとともに、今後未熟な彼らが関係機関のサポートを受けつつ立派な経営者になることを願っています。

紆余曲折の連続でしたが、第52期生は無事巣立って行きました。社会人になり壁にぶつかることもあると思いますが、彼らの持前の明るさで乗り越えてほしいと思います。卒業生の活躍を期待しています。

〔県民局だより〕

備中県民局管内の畜産クラスター取組状況
～生産拡大と地域との共存を目指して～

備中県民局畜産第一班
畜産第二班

１　はじめに

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（いわゆる畜産クラスター事業）は、畜産農家をはじめ、地域の関係事業者が連携・結集し、地域ぐるみで高収益型の畜産を実現するための国の事業であり、備中県民局管内でもこの事業を活用し、地域での取組が盛り上がってきましたので、その概要を紹介します。

GPセンターの外観

２　現在までの取組状況

(1) 笠岡市養鶏クラスター協議会
（事務局：笠岡市）

設立：平成27年12月10日
地域：笠岡市
取組年度：平成28年度補正
事業費：2,864,322千円

鶏卵選別包装施設（GPセンター）

このGPセンターは、協議会構成員である西日本ポートリー株式会社が取組主体となり、総事業費約28億円を投じ最新設備を導入しました。処理能力は既存施設の６倍の１時間あたり24万個対応できるようになり、これに伴い鶏の飼養羽数を２割増加させる予定です。（平成29年11月３０日完成）

今後、新たな取組主体での生産拡大等の計画があります。

GPセンターの内景

(2) 岡山全農養豚クラスター協議会
（事務局：全農おかやま県本部）

設立：平成29年５月26日
地域：岡山県（井原市、高梁市、新見市、真庭市）
取組年度：平成29年度
事業費：277,020千円

養豚クラスター協議会では、協議会構成員である岡山ＪＡ畜産株式会社が取組主体となり、総事業費約2.7億円を投じ汚水処理施設や肥育豚舎等の整備を行っています（平成30年3月28日完成）。

これに伴い、同社農場間における子豚の

移動がなくなり、衛生的で効率的な管理が実施できるとともに、今後一層規制強化が予測される環境基準にも対応した先進的な環境施設を整備することで、地域との共存が一層図られることが期待できます。

肥育豚舎（吉備農場）新見市

汚水処理施設（美星農場）井原市

(3) 新見市畜産クラスター協議会
（事務局：新見市）

設立：平成28年３月16日
地域：新見市
取組年度：平成28年度及び平成29年度
事業費：107,218千円

1）(有)哲多和牛牧場

飼養頭数の増頭に伴い増加する家畜ふんを効率的に一次処理するため、既存の堆肥舎にスクリュー式堆肥攪拌装置を設置することで処理量の増加と省力化を行いました。

スクリュー式堆肥攪拌装置　H29.3.9設置

2）(有)哲多町堆肥センター

地域の家畜頭羽数の増加に対応するため、スクープ式攪拌機等の導入により処理可能な家畜ふん量が増えました。平成30年４月から受け入れふん量を増やしています。

(4) その他協議会の取組

1）備北地区畜産クラスター協議会
（事務局：ＪＡびほく）
設立：平成28年11月22日
地域：高梁市、真庭市（旧北房町）、
　　吉備中央町（旧賀陽町）
取組主体（肉用牛農家等）でＷＣＳ生産機械導入等が実施されています。

2）笠岡市畜産クラスター協議会
設立：平成29年１月24日
地域：笠岡市

今後、酪農家等を中心とした生産規模拡大及び畜産環境改善の計画があります。

３　おわりに

このように、備中県民局管内では畜産クラスター事業を活用した施設整備が盛んに取り組まれており、収益力の強化が期待されます。しかしながら、大規模化する経営では必ず直面する環境問題への対応、畜産物のブランド化など、地域の課題に取り組んでいくことが大切であり、今後も県民局では生産拡大と地域の共存を目指して取り組んでいきたいと考えています。

〔家保のページ〕

労力低減に主眼を置いた ワンショット過剰排卵処置方法の検討

津山家畜保健衛生所

1　はじめに

ワンショット投与を実施した農家は、雌成牛200頭を越える大型和牛繁殖農家で、年間40頭程度を採卵し、受精卵移植技術を積極的に活用。従来法では複数回注射する必要のあるホルモン剤投与は労力的負担が大きいため、今回ワンショット投与法による労力低減を検討しました。

2　投与方法の比較

当家保の繁殖和牛に対する過剰排卵処置及びワンショット投与プログラムを図１に示します。

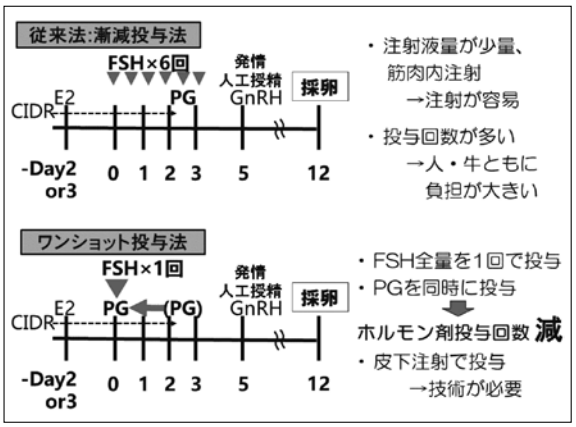


図1　投与法の比較

従来法である漸減投与法では、卵胞刺激ホルモン（FSH）を３日間朝夕２回、計６回徐々に量を減らしながら投与します。一方、ワンショット投与法は、FSH全量を１回で投与でき、従来法で後から行っていたPGを同時に投与するで、ホルモン剤投与回数を大幅に減らすことができますが、反面、皮下注射での投与のため、FSH注射の際にある程度の技術が必要となっています。

3　材料と方法

供試牛として黒毛和種経産牛を用い、FSH全量を皮下注射により投与しました。

液の調整方法により実施区を３つ設定し、実施頭数は、図２のとおりです。

ワンショット投与：

（供試牛）黒毛和種経産牛

（投与法）FSH全量(20または30AU)を皮下注射

※AU（アーマー）：ホルモン単位

①生理食塩水希釈50ml希釈区 ： ８頭（H29.4-7月実施）

②生理食塩水希釈30ml希釈区 ： ９頭（H29.10-12月実施）

③アルミニウムゲル添加3ml区：11頭（H29.9-10月実施）

（比較区）漸減投与法：38頭（H28年度実施分）

図2　材料と方法

4　結果と考察

①生理食塩水希釈50ml希釈区（50ml生食区）

最初にワンショット投与法の有効性を確認するため、県試験場での試験データを元に、従来法と同じ20AUのFSHを生食50mlで希釈した区を設定しました。

注射の難易度

●液量が多いため、注入の際に多少の力が必要

●長い注射針では皮膚の貫通に注意

●注入時の液漏れに注意

採卵成績

投与法	頭数	総採卵数	正常卵数	正常卵率	A excellent	B good	C fair	変性卵数	D bad	未受精
50ml 生食希釈	8頭	32.4±10.3	20.3±11.3	62.5%	11.6	2.9	5.8	12.1±8.6	9.1	3.0
漸減投与	38頭	32.7±21.5	16.8±15.8	51.4%	10.5	2.4	4.0	15.9±16.0	6.5	9.3

※50ml生食区－漸減投与区間で有意差なし

図3　50ml生食区：結果

注射の難易度及び採卵成績は図３のとおりです。採卵成績としては、２産以上の８頭で実施、総採卵数32.4、正常卵率62.5％と従来法と変わらない成績となりました。

②アルミニウムゲル添加3ml区

さらなる簡素化を目的に、ワクチンアジュバントとしても使用されている除放剤

(アルミニウムゲル)を添加することで注射液量を３mlと大幅に減量したアルミニウムゲル添加区を設定しました。注射が容易になると予想されたため、獣医師の指示のもとで農家自身で頸部皮下注射を行いました。なお、FSH用量は投与指示量30AUです。

注射の難易度

●液量が少ないため、注射時の液量ロスに十分注意
●ｱﾙﾐﾆｳﾑｹﾞﾙ量が必要最低限、厳重に扱う必要あり
●筋肉内に誤って注入すると効果なし
→ハンドリングが難しく、農家が難色を示す

採卵成績

投与法	頭数	総採卵数	正常卵数	正常卵率	A excellent	B good	C fair	変性卵数	D bad	未受精
ｱﾙﾐﾆｳﾑｹﾞﾙ添加	11頭	19.3±12.1	8.7±5.3	45.3%	5.5	1.4	1.9	10.5±12.0	4.9	5.6
漸減投与	38頭	32.7±21.5	16.8±15.8	51.4%	10.5	2.4	4.0	15.9±16.0	6.5	9.3

初産牛が多く、成績不良

※ ｱﾙﾐﾆｳﾑｹﾞﾙ添加区－漸減投与区間で有意差なし

図4　アルミニウムゲル添加区：結果

注射の難易度及び採卵成績は図４のとおりです。液量が少量となったことが、結果的にハンドリングを難しくさせ、農家が投与に難色を示しました。採卵成績としては、初産を含む11頭で実施し、総採卵数19.3、正常卵率45.3％と従来法に比べ、やや低い成績となりました。

③生理食塩水希釈30ml希釈区(30ml生食区)

アルミニウムゲル添加区が農家から不評だったため、注射のし易さと遜色ない採卵成績を期待して、FSH20AUを生食30mlに減量して希釈し実施しました。同様に農家自身による投与としました。

注射の難易度

●生食の液量を減らし、注入し易く
●短く太い注射針利用で注入時の液漏れを防ぐ
→ 農家からは好評

採卵成績

投与法	頭数	総採卵数	正常卵数	正常卵率	A excellent	B good	C fair	変性卵数	D bad	未受精
30ml生食希釈	9頭	26.1±20.6	17.7±10.2	67.8%	11.7	3.0	3.0	8.4±13..6	6.3	2.1
漸減投与	38頭	32.7±21.5	16.8±15.8	51.4%	10.5	2.4	4.0	15.9±16.0	6.5	9.3

※ 30ml生食区－漸減投与区間で有意差なし

図5　30ml生食区：結果

注射の難易度及び採卵成績は図５のとおりです。注射がし易くなり、この方法は農家からは好評でした。採卵成績としては、初産を含む９頭で実施し、総採卵数26.1正常卵率67.8%と良好であり、現在もこの方法で継続実施中です。

３区をまとめて比較すると、全データではワンショット３区のうち、アルミニウムゲル添加区でやや低い成績となりましたが、２産以上経産牛と初産牛に分けて比較した場合、２産以上では、総採卵数は差は認められませんでした（表１）。

2産以上経産牛

区分	投与法	頭数	総採卵数	正常卵数	正常卵率	変性卵数
ﾜﾝｼｮｯﾄ法	50ml生食希釈	8頭	32.4 ±10.8	20.3 ±11.3	62.5%	12.1 ±8.6
	30ml生食希釈	6頭	32.3 ±19.1	22.7 ±10.0	70.3%	9.7 ±13.0
	ｱﾙﾐﾆｳﾑｹﾞﾙ添加	3頭	34.0 ±12.5	13.0 ±7.2	38.2%	21.0 ±17.4
従来法	漸減投与法	32頭	34.6 ±22.5	17.3 ±16.7	50.0%	17.2 ±17.0

初産牛

区分	投与法	頭数	総採卵数	正常卵数	正常卵率	変性卵数
ﾜﾝｼｮｯﾄ法	50ml生食希釈	－	－	－	－	－
	30ml生食希釈	3頭	13.7 ±13.9	7.7 ±8.6	56.1%	6.0 ±5.8
	ｱﾙﾐﾆｳﾑｹﾞﾙ添加	8頭	13.8 ±8.2	7.1 ±3.8	51.4%	6.6 ±7.3
従来法	漸減投与法	6頭	22.5 ±12.3	13.8 ±10.1	61.3%	8.7 ±4.7

表1　採卵成績の比較

ただし、アルミニウムゲル添加区で正常卵率が低い結果となっていますが、供試頭数が３頭と少なく、うち１頭の正常卵率が極端に低かったため、成績に影響した可能性が考えられました。

初産牛は、50ml区で実施がなかったものの、30ml生食区、アルミニウムゲル添加区両区で、総採卵数が14個程度と２産以上に比べて低い傾向が認められました。アルミニウムゲル添加区では、とくに実施頭数の多かったため、成績を低下させたと推察されます。なお、正常卵率に大きな差は認められませんでした。

５　さいごに

今回、ワンショット投与法による労力低減について検討しましたが、「ほんとうに注射が楽になった!!!」という農家の感想が大きかった印象が残っています。

従来法と遜色ない成績を得ていることから、今後も必要に応じて、ワンショット投与法を活用したいと考えています。

〔技術のページ〕

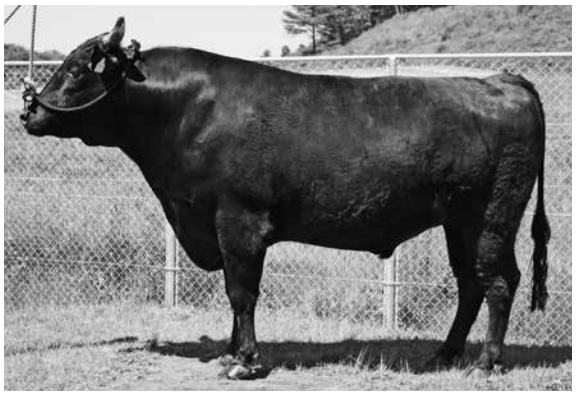
新たな岡山県基幹種雄牛の紹介
～兄弟でデビュー！～

岡山県農林水産総合センター　畜産研究所　育種改良研究グループ

次世代を担う新たな岡山県基幹種雄牛として、平成29年度に同じ母牛（たかみず81）の産子から２頭が選抜されたので、ご紹介します。

【新規基幹種雄牛】

１.「新高水（しんたかみず）」号
～優れた産肉能力の新藤良系！～
平成29年６月選抜



生年月日：平成23年３月21日
生 産 者：井口　貞信氏（津山市）
育 成 者：森岡　和雄氏（津山市）
登録番号：黒原5609　審査得点：83.7点
血統：

父母	祖父母	祖々父母
新糸藤	糸藤（大分）	糸福（大分）
		つるひめ６
	しんはつひめ１	利花
		第２はつひめ
たかみず８１	平茂勝	第２０平茂
		ふくみ
	たかみず８	北国７の８
		たかみづ３

「新高水」号は、大分県の「糸藤」号を父とする「新糸藤」号の後継牛として作出された種雄牛で、第10回全国和牛能力共進会（長崎県大会）の種牛の部（１区）において優等賞を受賞しました。

父の「新糸藤」号は、肩付きや骨じまりが良く、産肉能力では脂肪交雑に優れた藤良系種雄牛ですが、枝肉重量がやや小さいことが課題でした。母の「たかみず81」号は、藤良系と気高系の増体系で作出され、体積が豊かで、特に体幅や体深に優れており、産子の枝肉も肉量、肉質ともに優秀な成績を出しています。

このような父母から作出された「新高水」号は、体幅、特に岡山和牛の課題である前躯の幅と形状に優れていて、これらの改良が期待できます。現場後代検定成績では、枝肉重量、ロース芯面積が特に優れ、バラの厚さと脂肪交雑においても高い育種価であり、産肉能力の優れた藤良系種雄牛となっています（表１）。

表1　「新高水」号の現場後代検定成績及び育種価

	検定成績		第47回育種価
	去勢	雌	
枝肉重量(kg)	500.6	455.4	38.379　(C)
ﾛｰｽ芯面積(cm²)	63.0	61.9	12.334　(A3)
ﾊﾞﾗの厚さ(cm)	8.1	7.9	1.209　(5%)
脂肪交雑(BMS No.)	7.4	6.7	1.719　(A2)
上物率(%)	88.9	88.9	

交配については、検定成績からみると藤良系または兵庫系を父に持つ雌牛との交配で脂肪交雑が好成績でした。また、雌牛の系統を問わずにバラの厚さがあり、安定していました。

本牛は体幅に優れていますが、体長におい

てやや課題があるため、体長の優れた雌牛との交配で質量兼備の産子が期待できます。

２.「新岡光81（しんおかみつ）」号
～岡山県初「茂洋」の息牛～
平成29年10月選抜

生年月日：平成24年８月８日
繁殖者：井口　貞信氏（津山市）
生産者：西村　佳明氏（新見市）
登録番号：黒原5743　審査得点：84.5点
血統：

父　　母	祖　父　母	祖々父母
茂　　洋	茂　　勝	茂　重　波
		ひ で か つ
	こ　ざ　さ	糸　晴　波
		あわたに１
たかみず８１	平　茂　勝	第２０平茂
		ふ　く　み
	たかみず８	北国７の８
		たかみづ３

「新岡光81」号は肉質の改良を目的に、宮城県の「茂洋」号を利用して作出されました。父の「茂洋」号は茂金系で、体型は体深、中躯幅、尻の形が優れています。産子の枝肉成績は枝肉重量、ロース芯面積が大きいことに加えて、傑出した脂肪交雑の成績を出しました。母牛は先ほど紹介した「たかみず81」号で、「新高水」号と半きょうだいです。本牛も「たかみず81」号の優れた増体能力を受け継いでおり、特に体積と均称に優れ、体上線も良好です。また、現在、当研究所で繋養している種雄牛の中で一番大きい種雄牛です（平成29年12月現在の体重：1,005kg）。

「新岡光81」号の現場後代検定は、家畜改良事業団と共同で実施されました。去勢では全頭が４規格以上の上物でした。検定成績はどの形質も優れていますが、特に枝肉重量と脂肪交雑では岡山県種雄牛の中で過去最高の成績が出ており、質量ともに優れた産肉能力となっています（表２）。

表2　「新岡光81」号の現場後代検定成績及び育種価

	検定成績		第47回育種価
	去勢	雌	
枝肉重量(kg)	528.8	485.5	110.396　(1%)
ﾛｰｽ芯面積(cm²)	60.6	63.2	16.887　(5%)
ﾊﾞﾗの厚さ(cm)	8.2	7.9	1.316　(3%)
脂肪交雑(BMS No.)	7.6	7.4	2.198　(3%)
上物率(%)	100	92	

交配については、気高系または兵庫系の繁殖雌牛との交配で脂肪交雑とロース芯面積が好成績でした。また、気高系の繁殖雌牛との交配で枝肉重量とバラの厚さに優れ、安定していました。

ただし、本牛の産子は大きい場合がありますので、未経産牛への交配は避けてください。

また、本牛の凍結精液は製造が難しく、しばらくの間供給できない状況でご迷惑をおかけしていましたが、平成30年３月から販売を再開しました。

当研究所で現在繋養中の基幹種雄牛は、「新初英」号、「義勝成」号、「藤沢茂」号、「黒金糸藤」号に上記のニューフェイス２頭を合わせた６頭となりました。いずれも本県の和牛改良に資する優秀な種雄牛ですので、ぜひご活用をお願いいたします。

終わりになりますが、種雄牛の生産者をはじめ、現場後代検定に協力して頂いた繁殖農家並びに肥育農家の方々、多くの関係者の皆様に感謝を申し上げます。

（西川早百合）

〔畜産現場の声〕

おいしい豚肉づくりを目指して～新田養豚の挑戦～

真庭市　新田　善洋

今回は、真庭市で養豚業を営む新田善洋さんのこだわりの経営を紹介します。

１　経営の概況

新田さんは、中国道北房IC近くの真庭市五名で養豚と水稲の複合経営を進めています。養豚業では、繁殖母豚65頭を飼育し、年間1,500頭の肥育豚を出荷する一貫経営に取り組んでいます。労働力は、ご夫婦とお父さんの３名です。

２　就農のきっかけ

新田さんは、平成19年に43歳で就農しました。それまでの25年間は金属加工関係の会社に勤め、養豚業を含め農業はご両親が専業で携わっていました。ご両親が高齢となり農作業がきつくなったことから、会社員生活25年の節目に思い切って農業を継ぐことにしました。しかし、経営を引き継いだ時期は、飼料代が高騰しており、養豚経営にとっては厳しい時期でした。子どものころから農業を手伝っていたので米作りや豚飼いの作業に困ることはなかったそうですが、経営は続けるのがやっとといった状況でした。

３　出会い

経営状況が好転するのは５年ほど前です。新たな融資を受け、資金繰りが安定し、経営を振り返る余力ができました。その時期に経営の転機が訪れました。県下の養豚事業者や関係団体などで組織する養豚振興協会の研修会で、会員等が生産する豚肉の試食会がありました。黒豚との出会いです。飼料高騰など外部要因に振り回される経営を嫌というほど味わってきた経験から、新田養豚にしか作れない高品質な豚肉の生産を考えていた時期に、黒豚のおいしさを知ったのです。

４　黒豚への思い

その時試食した黒豚の肉は、はっきり差がわかる味でした。これなら、自分が生産する豚肉を消費者に直接アピールできると思ったそうです。それから、新たな挑戦が始まりました。黒豚は産子数が少なく成長も遅いため、純粋種の肥育ではなく、従来の３元交配の止め雄に黒豚を利用することを考えました。また、肉質の改善効果が期待できる飼料用米やパン屑を試験的に与えた結果、生産性を落とさず自分が考えていた味が再現できました。これを契機に、黒豚を利用した肥育豚の生産を増やし、現在では出荷豚の８割以上になりました。

生産体制が整ったことから、現在はＪＡびほくや普及指導センターなどの協力のもと販売に力を入れています。そのために商標も取りました。「米ブレッとん」です。現在、このブランド名で販売しているのは地元直売所の２店舗ですが、量販店などからの引き合いもあり、おいしい豚肉を求める消費者に向けた販路開拓を全農岡山県本部などの協力を得ながら進めています。

まいぶれっとん
米ブレッとん

商標のデザイン

５　むすび

新田さんには農業大学校で養豚を学んだ息子さんがいますが、現在は若いころの新田さんと同じで他産業に従事しています。「将来の後継者ですか」とお尋ねしたところ、「継ぐかどうかは息子の考え。養豚業はこれからも厳しい時代が続くと思うが、自分としては息子が継いでもいいなと思うような魅力ある養豚経営を目指すだけ」と答えが返ってきました。新田さんの挑戦は始まったばかりですが、小規模ながら地域や消費者に根ざし、国内生産を支える魅力的な経営として今後の発展が期待されます。

直売所で販売している豚肉

〔畜産女性の声〕

雑　感

井家上　淑子（おかやまフォーベルネット会員）

私は嫁いでから33年間酪農に従事しておりましたが、60歳で世間並みに酪農から定年したいという夫に「今度は何するの？」と聞くと「ずっとやりたかった」という、和牛繁殖。

平成20年10月31日すべての乳牛を売却、11月１日にはパイプラインも撤去という早わざ。

最もこの６年ほど前よりＥＴで素牛を少しずつ増やしてはいたのですが。

繁殖農家に変身してからの苦労は哺育！

乳牛もほとんど自家育成してきたのでミルクをやる事は慣れていたはずなのに下痢ばかり。

ついに子牛は母親にまかせ、人工哺乳から撤退。この事は私の仕事が一つ減り、ミルク代もいらないというおまけ付き。今年で和牛にかえてから10年になりますが、子牛を親に付けても繁殖成績を特別気にする事は無し。

離乳のため母子分離する頃には妊娠確認済みです。もっとも下痢は母牛につけても同じで夫は苦労している様です。４ヶ月くらいで離乳した子牛達の担当は私ですが、このころから出荷まで、ほとんど病気はなく朝夕の餌やりの時、「大きくなってネ!」と声かけしながら与えているだけです。

我家が和牛農家になってから10年、素牛がこんな価格になるとは思ってもみなかった事でしたが、看板牛を飼養したいという夫の思いで30頭の母牛の内20頭余りは２系統の牛群に揃ってきました。素牛導入には、それなりの費用もかけましたが、導入時アドバイスを下さった方にも感謝です。

井家上牧場、今後はどうなるのか？

家の後継はいるのですが、牧場の後継はいないに等しい。夫は老化に近い病を得て今後１年くらい気をつける様に言われてもいる。

そこで夫(1)＋妻(1)＝２ではなく

夫(1)＋妻(1)＝１

その１の８割、つまり２人合わせて0.8くらいの仕事をしようと話し合いました。現状を維持しなくてもいいという事から何となく気が楽になります。でもいい子牛が生まれるとやっぱり残そうよとなるのです。これも牛飼いの生きがいと楽しみですよネ。

もうひとつ私自身の楽しみ。国内外を問わず、あちこち出かけ、友達を作る事。生きがいです。牛の仲間にはいつも力をもらってます。今年はパスポートも期限切れになります。

娘に相談すると10年のを申請しといた方が元気でいられるよ!

体に気をつけ出来るだけ長ーく牛飼いをつづけたく思っている今日この頃です。

〔ホットニュース〕

(有)カーライフフジサワが農林水産省生産局長賞を受賞
－第4回全国自給飼料生産コンクール－

(一社)岡山県畜産協会

平成30年３月５日、(一社)日本草地畜産種子協会会議室において、「第４回全国自給飼料生産コンクール賞状授与式」が開催され、岡山市の有限会社カーライフフジサワ（代表取締役　藤澤輝久氏）が農林水産省生産局長賞を受賞されました。カーライフフジサワは異業種参入で、大規模借地経営とコントラターを行う農業・作業受託経営です。副業の農業を本格させるために農業生産法人へ移行し、イネわら収集から農作業受託のコントラクターを組織化、食用米（特別栽培米や酒米など)、稲WCS、飼料用米を中心に、２年程前からはトウモロコシ生産まで拡大しました。

審査では次の点が評価され受賞となりました。

①水田にトウモロコシを転作することで稲作との作業分散を図るとともに、地下水位制御システム（FOEAS）の導入により高収量を達成している。

②多数の分散農地での作業を、地理情報システムを使って可能にしている。

③国や県の研究機関と連携することで経営内の技術革新を行うとともに、大規模水田経営体のモデルとして、地域内外における技術の普及に貢献している。

④息子が農作業の中心に携わっており、後継者が育っている。新卒で１人採用するなど、若者にとっても魅力ある経営である。

藤澤夫妻

平成29年度耕畜連携推進研修会を開催しました。

(一社) 岡山県畜産協会

２月28日に耕種農家による飼料用トウモロコシ（トウモロコシWCS）の生産拡大を図るため、岡山市で耕畜連携研修会を開催しました。

農研機構飼料生産部門の菅野ユニット長の講演では、播種量は欠株を考慮して10％程度多めにすること、岡山県における二期作栽培適地判定等について説明されました。農研機構西日本農業センターの上田上級研究員は、物理柵、電気柵の適切な設置の重要性、電気柵は常時通電しておくことの必要性等を動画で分かりやすく説明されました。備前県民局の朝倉主幹、(有)カーライフフジサワの藤澤代表取締役は、飼料用トウモロコシの生産事例として、汎用型収穫機の稼働率、作業平準化及び収益性等について説明されました。鳥取農業改良普及書の大井普及主幹は、鳥取県東部における飼料用トウモロコシ生産の概要、推進方策、収益性等について紹介されました。農研機構西日本農業研究センターの千田グループ長は、臨時雇用確保が困難となるなかでの最適な水田での生産体系モデルの試算により、飼料用トウモロコシ生産の所得面等での効果について説明されました。

平成30年から生産開始予定の耕種農家も出席されており、今回の研修を活かし関係機関と連携し飼料用トウモロコシ生産拡大を進めていきたいと考えています。

株式会社卵娘庵にて農業高校生と交流会を開催しました!

(一社)岡山県畜産協会

平成30年3月19日、株式会社卵娘庵にて、農業高校生との交流会を開催しました。これは、平成27年度より中央畜産会より委託を受け行っている「畜産経営における女子力発揮推進事業」を活用して行ったものです。参加者は、岡山県立高松農業高等学校の生徒20名です。

はじめに、卵娘庵の藤井浩太郎氏にご挨拶をいただき、卵娘庵の店舗にて現場実習を行った後、意見交換会を開催しました。

まず、卵娘庵の藤井美佐代表取締役より女性経営者としての仕事内容や魅力について講演を行っていただき、続いて従業員の佐藤桃重氏より「農業の世界への就職について」と題し、高校を卒業して卵娘庵へ就職した経緯や就職後のやりがいや苦労話などをお話ししていただきました。参加者からは、「どうして養鶏の仕事を選んだのか？」「辞めたいと思ったことはあるか？」等の質問があげられたほか、「畜産というのは男性の仕事と思っていたが、女性がこんなに生き生きと仕事をしていることを聞いて驚いた。」「鶏の世界はもう少し地味な世界だと思っていたが、卵娘庵さんはとても明るく、楽しそうに仕事をされていて印象が変わった。」と感想が述べられました。

美佐氏は、「若い世代にどんどん農業の世界へ参入してほしい。」と話され、当協会としても今後も有意義な交流会を開催し、農業の魅力を発信していく予定としています。

第53回豚枝肉共励会開催報告

岡山県養豚振興協会事務局

平成30年３月５日から７日にかけて、当協会主催により県営食肉地方卸売市場において第53回豚枝肉共励会を開催しました。共励会には６農場より30組計60頭の出品があり、食肉市場の河原宏一場長を審査長に５名の方に審査をお願いし、その結果、最優秀賞首席と３席に岡山ＪＡ畜産(株)吉備農場の出品豚が、２席に(有)協和養豚の出品豚がそれぞれ褒賞されました。

また、７日の表彰式後に行われたセリでは、最優秀賞首席の枝肉は、700円/kgの値がつき、平均単価は416円となりました。

今回の出品豚の特徴として、平均出荷日齢が177日、枝肉重量は平均83kgであり、肉質や肉付きのバランスは良かったものの、枝肉重量の過大により格下げされたものが多く見られ、上物率は12%にとどまりました。その要因として、この冬の野菜価格の高騰にともない、豚肉の市場価格が下落したため、その市場動向に各生産者が増体で対応していることが窺えました。

当協会では、会員ともども今回の共励会の結果を踏まえ、引き続き、適正な飼養管理を行い、消費者の皆さんにとってより安全・安心でおいしい豚肉の生産に努めてまいります。最後に、この度の共励会にご協力いただいた関係各位に感謝申し上げ、開催報告とします。

岡山県畜産関係者名簿（平成30年4月1日現在）

部　　署	職　　名	氏　　名
畜産課	課長	菱川　雅弘
	副課長	宗長　和則
生産振興班	総括参事（生産振興班長）	岸戸　武士
	副参事	三木　隆司
	副参事	岡田　英樹
	主幹	片岡　まどか
	主任	荒金　知宏
	技師	田中　康裕
衛生環境班	総括参事（衛生環境班長）	橋本　尚美
	副参事	森分　哲彦
	副参事	池田　克美
	主幹	馬場　彩
	主幹	福島　成紀
	主任	高崎　緑
経営流通班	総括参事（経営流通班長）	藤原　努
	副参事	清水　淳也
	副参事	真柴　慎三
	副参事	塩田　鉄朗
	主幹	片山　康浩
	主幹	谷本　敦史
	主任	高取　和弘
備前県民局	農畜産物生産課長	松尾　善博
	総括副参事（畜産班長）	吉元　和明
	副参事	滝本　英二
	主幹	朝倉　麻由子
	主任	宮本　康子
	主任	黒岩　恵
	技師	岩本　侑希子
（再任用）	技師	額田　和敬
備中県民局	農畜産物生産課長	黒田　忠明
	総括副参事（畜産第一班長）	河原　貴裕
	副参事	森山　靖成
	主幹	佐野　通
	主任	武藤　多佳子
	主任	立川　優子
	主任	吉田　由紀
	技師	入江　結唯
	総括副参事（畜産第二班長）	串田　晴彦
	主任	西村　祐枝
（新規採用）	技師	宮野　友理

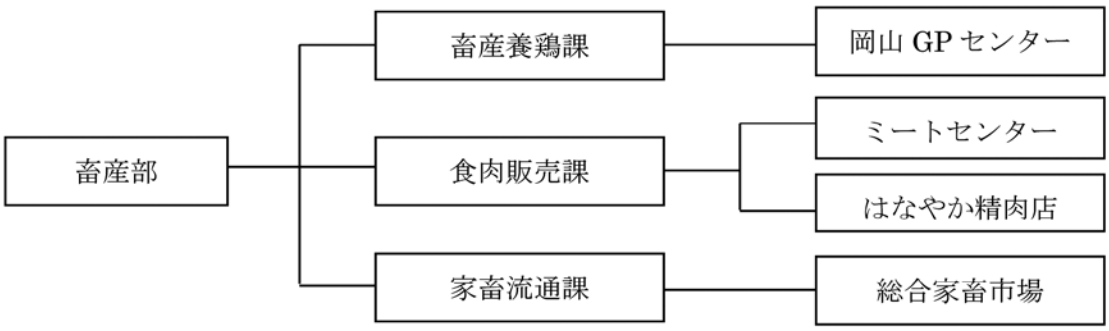
部　　署	職　　名	氏　　名
美作県民局	農畜産物生産課長	津寺　春良
	総括副参事（畜産第一班長）	斉藤　浩史
	副参事	松馬　定子
	副参事	内田　啓一
	技師	前川　真穂
	技師	岡部　真宏
（新規採用）	技師	江草　亮太
	総括副参事（畜産第二班長）	行森　美枝
	副参事	植田　幹隆
	技師	綱島　優子
岡山家保	所長	河原　宏一
家畜保健衛生課	課長	遠藤　広行
	副参事	守屋　吉英
	副参事	萱原　佳美
	副参事	金岡　孝和
（新規採用）	副参事	藤木　美佐子
	主幹	いざさ　啓介
	主任	難波　かおり
	主任	梯　洋介
事務	主任	宮本　有祐
（休）	主任	荒木　由季子
	技師	宇髙　成美
病性鑑定課	課長	（所長兼務）
	専門研究員	澤田　勝志
	専門研究員	別所　理恵
	専門研究員	出石　節子
（休）	研究員	澤井　紀子
	研究員	山口　葵
	研究員	水上　智秋
井笠家保	所長	平野　充生
	次長	牧野　俊英
	副参事	平井　伸明
	副参事	山内　章江
	副参事	横内　淳一郎
	副参事	田中　健嗣
	主幹	橋田　明彦
	主任	児子　友美
	主任	田中　成枝
	技師	武内　大
（新規採用）	技師	神田　優衣
高梁家保	所長	森　尚之
	次長	岡田　ひろみ
	副参事	西川　真琴
	副参事	秦　守男
	副参事	黒岩　力也
	主幹	佐藤　静子
	主幹	田中　静香
	主幹	横内　百合香
（新規採用）	技師	梶谷　真一郎

部　　署	職　　名	氏　　名
真庭家保	所長	松長　清美
	次長	澤田　健二
	副参事	田原　鈴子
	主幹	定森　淑子
	主幹	小田　亘
	主任	笹尾　浩史
	主任	紙谷　建志
	主任	金谷　真澄
	技師	森　眞理子
（新規採用）	技師	岡田　慧
津山家保	所長	馬場　誠
	総括参事	平田　祐介
	副参事	小阪　和正
	副参事	高見　剛
	副参事	西　　淳子
	副参事	中山　裕貴
	主幹	岡本　雄太
事務	主任	岡村　涼平
	主任	串田　規子
	主任	谷口　翔
	主任	石川　晶子
（再任用）	主任	権代　将人
（休）	技師	光宗　仁美
	技師	杉本　裕亮
（休）	技師	大津寄　由華
農林水産総合センター	次長	中塚　陽二郎
総務課	副参事	佐々木　健次
（畜産研究所駐在）	副参事	樋口　久男
	主幹	北原 一男
ゞ畜産研究所	所長	平本　圭二
	副所長	広金　弘史
経営技術研究室	室長（特別企画専門員）	川尻　鉄也
	特別企画専門員	山本　康廣
（企画開発グループ）	グループ長	大谷　晴美
	専門研究員	武縄　勝浩
	専門研究員	高取 健治
	技師	森清　邦彦
（環境研究グループ）	グループ長	白石　誠
	専門研究員	水木　剛
	副参事	安藤　芳宏
改良技術研究室	室長（特別企画専門員）	砂原　一彦
（育種改良研究グループ）	グループ長	片岡　博行
	研究員	小林　宙
	技師	西川　早百合
	副参事	福井　康勝
	主幹	岡本　元正
	主幹	横山　明彦
（再任用）	主事	定本　護

部　　署	職　　名	氏　　名
（養豚研究グループ）	グループ長	（改良技術研究室長兼務）
	専門研究員	佐々木　真也
	主幹	高山　勲
	主幹	村田　和弘
（再任用）	主任	湛増　美好
（再任用）	主事	上田　利男
（繁殖システム研究グループ）	グループ長	有安　則夫
	専門研究員	坂部　吉彦
	研究員	金谷　健史
飼養技術研究室	室長（特別企画専門員）	井上　信治
（生産性向上研究グループ）	グループ長	川口　泰治
	専門研究員	脇本　進行
	技師	羽柴　一久
	副参事	富田　康
	主幹	杉山　卓
	主任	福島　敏道
（飼養管理研究グループ）	グループ長（特別研究員）	長尾　伸一郎
	専門研究員	石川　和人
	技師	三宅　歩
	副参事	定賀　和夫
	副参事	山田　庄市
	主幹	有富　勝仁
	主幹	大平　嘉秀
（再任用）	主任	服部　一洋
食肉市場	場長	秋山　俊彦
	次長（総務課長）	高木　克己
総務課	主任	池田　伸太
	主任	塚原　政俊
業務課	課長	中村　浩三
	主幹	難波　浩
	主幹	妹尾　直樹
	主幹	田辺　裕司
	主任	福田　新
（再任用）	主任	眞木　元
酪農大学校	校長	山田義和（OB）
	副校長	木曾田　繁
総務課	課長（副校長兼務）	（木曾田　繁）
教務課	主任	田中　恵

家畜部	部長	日下知加久
家畜課	課長	鴨井敏則
TEL 086-224-5596	主査	平松美紀
FAX 086-225-7064	主事	安井実穂
	主事	花土大樹
	嘱託	西村一道
	臨時	沖永美樹子
生産獣医療支援センター	所長	西山篤
TEL 0867-22-1500	次長（兼）	西川達也
FAX 0867-22-1194	主任	池山亨
	技師	若槻拓司
	技師	齋藤愛
	技師	金子愛弥
	嘱託	大賀まりえ
南部家畜診療所	所長	西川達也
TEL 086-943-6888	主査	荒木勇介
FAX 086-943-7703	主任	根木慶彦
	技師	広瀬水彩子
	臨時	岡本麻衣
西部基幹家畜診療所	所長	正木丈博
TEL 0865-64-4141	副主幹	大屋卓志
FAX 0865-64-2926	主査	水戸康明
	主任	久田野歩
	主任	上田俊樹
	技師	石田和子
	技師	松尾みなみ
	技師	守屋ひか理
	嘱託	村田一人
	臨時	小野好恵
西部家畜診療所	所長	畦崎正典
TEL 0866-22-2211	技師	渡邉卓彌
FAX 0866-22-0358	技師	富永由香
	嘱託	前原健成
	嘱託	山護
	臨時	中笹良恵
西部家畜診療所新見支所	技師（兼）	渡邉卓彌
北部基幹家畜診療所	所長	杉山定
TEL 0868-26-1112	副主幹	椿修
FAX 0868-26-6632	副主幹	江草佳彦
	技師	高岡亜沙子
	技師	宇野進
	技師	佐藤佳美
	技師	橋本綾乃
	技師	森田未央
	嘱託	福原稔
	嘱託	植月義友
	嘱託	田村展敏
	臨時	小林直子
真庭家畜診療所	所長	影山毅
TEL 0867-44-2164	技師	峠田大志
FAX 0867-44-5319	嘱託	西原直
	臨時	上田千賀子
蒜山家畜診療所	所長	森本高輝
TEL 0867-66-2517	主任	神田遥子
FAX 0867-66-4626	技師	越本時貴
	嘱託	金盛隆志
	嘱託	犬間一郎
	臨時	宮本美佐枝

全農岡山県本部 畜産部 組織図



全農岡山県本部 畜産部 人事配置　　平成 30 年 4 月 1 日現在

部・課	職　名	氏　名	備　考
畜産部	部長	川崎 敦史	
	次長	藤原 哲	兼務
		難波 智明	
畜産養鶏課 (畜産 086-234-6884) (養鶏 086-234-6885)	課長	暮地岩 有斗	兼務
		太田 衣美	
		小野 皆人	
		原 千秋	
岡山 GP センター (086-292-5307)	センター長	暮地岩 有斗	兼務
食肉販売課 (086-296-5033)	課長	西野 芳仁	
	専任課長	堀田 文博	
		太田 裕之	
		阿食　赳正	
		中本 祥子	育児休職中
		福島 美津子	
		森川　修治	
ミートセンター (086-296-5088)	センター長	藤原 哲	兼務
		中村 倫政	兼務
		木下 貴博	
		川上 圭太	
		井上 清志	
		廣重 和秀	
		佐藤 茂	
はなやか精肉店 (086-222-2560)	店長	藤原 哲	兼務
		中村 倫政	兼務
家畜流通課 総合家畜市場 (0867-42-5333)	課長	山本 高宏	
	市場長	中村 健	
		柴田 憲志	兼務
		小椋 一広	
		植田 淑江	

おかやま酪農業協同組合機構図：平成30年4月1日付

組合長 東山 基

専務 吉原 謙一

参事 笹野 英明

内部監査室
- 参与 （嘱託）頼実 常良
- （兼） 早瀬 修
- （兼） 保田 徹

コンプライアンス対策室
- （兼） （嘱託）頼実 常良
- （兼） 早瀬 修

総務部長 早瀬 修

総務経理課
- 課長 保田 徹
- 調査役 土居 直美
- 調査役 中尾 由美子
- （兼） 小島 悟司
- 小山 清志
- （臨時） 川上 千春
- （臨時） 仲矢 ゆかり

経営支援課
- 課長 赤木 伸一
- 小島 悟司
- （兼） 小山 清志

総務部付
- 調査役 粟井 哲子
- 家畜改良団事業団出向 三門 隆之
- 中販連駐在 （嘱託）鶴井 真一

特別対策室
- （兼） （嘱託）頼実 常良
- （兼） 小島 悟司

事業本部長 小椋 孝史

参与（嘱託） 高山 浩二

参与（嘱託） 平田 満

参与（嘱託） 坂手 靖宏

生産支援課
- 課長 植月 雅浩
- 藤澤 理恵
- 水島 博子
- 砂田 智子
- （兼） （嘱託）高山 浩二

生産診療課
- 課長 （獣医師）清水 正裕
- （獣医師）菅田 祥介
- （獣医師）神野 卓哉
- （獣医師）矢野 敬雄
- 森中 友美
- （臨時） 直原 里江

流通課
- 課長 大西 克巳
- 調査役 高橋 真理子
- 山中 雅美
- （兼） （嘱託）平田 満

購買課・津山SP
- 課長（兼）津山SP所長 入江 一憲
- 高橋 信介
- 佐倉 淑乃
- 芳田 朱音

生乳課
- 課長（兼） 小椋 孝史
- 調査役 西原 茂和
- 調査役 松下 千春
- 樋口 晋一
- （臨時） 妹尾 明美

津山支所
- 支所長（課長待遇） 本城 宏史
- （兼） 藤澤 理恵
- 池田 直人
- 花本 和希
- 豊浦 陽二郎
- （嘱託） 井家上 誠
- （獣医師）（嘱託） 岡田 啓市

南支所（西大寺事務所）
- 南支所長（次長待遇） （獣医師） 松木 晋

銚野CS
- CS所長（調査役待遇） 牧原 雅幸
- 森崎 陽子
- （兼） 樋口 晋一
- 湯浅 達也
- 片岡 純一
- （嘱託） 岩佐 立也

蒜山事務所・蒜山SP
- 蒜山事務所長・SP所長（調査役待遇） 山本 恭子
- 長須 悠樹
- 山口 英範

ヘルパー
- 青草 真一
- 岸本 公博
- 川口 権悟
- 奥野 信介
- 馬澄 真吾
- 髙田 碧
- （嘱託） 仁木 豊
- （蒜山地区） 清渕 義幸
- （蒜山地区） 仁科華菜子
- （蒜山地区） 鈴木丈太郎

西大寺事務所
- （兼）西大寺事務所長 松木 晋
- 調査役 西山 訓子
- 調査役 奥山 康恵
- 守安 浩
- 難波 正憲
- （嘱託） 和田 哲夫

西大寺SP
- （兼）SP所長 松木 晋
- 木津 登志子

ヘルパー
- 真壁 福元
- 安達 俊介

備南事務所
- 備南事務所長（次長待遇） 田中 徹
- 濱田 高美
- （嘱託） 桑木 道彦
- （臨時） 岡本 雅代

ヘルパー
- 西山 勝之
- 尾崎 直幸

びほく事務所
- びほく事務所長（調査役待遇） 延藤 久美恵
- 阿部 静香
- 参与 獣医師 （嘱託） 赤堀 弘

ヘルパー
- 佐久間 和歌
- 梶岡 由嗣

平成30年4月1日現在

	男	女	計
職員	31	20	51
（うち出向）	(1)		(1)
臨時		5	5
嘱託	11		11
（うち駐在）	(1)		(1)
ヘルパー	13	2	15
嘱託	1		1
合計	56	27	83

平成30年度　一般社団法人岡山県畜産協会組織図

（平成30年4月1日）

代表理事会長
樋口義男

副 会 長
東山　基

専務理事
柴田範彦

事務局長
大塚武宣

企画管理部　（TEL　086-221-0511）
（FAX　086-234-6031）

審 議 役　小山　雅子
審 議 役　築山　伴文
主　　事　井戸本由美

経営支援部

部　　長　栗木　隆吉

経営対策班（TEL　086-222-8575）
（FAX　086-234-6031）

班　　長　目瀬　　勤
副調査役　藤原　裕士
副調査役　井上　睦恵
副調査役　池見　　亮
技　　師　高尾　奈々

価格対策班（TEL　086-234-5981）
（FAX　086-223-4755）

班　　長　築山　伴文（兼務）
嘱託職員　和田　直美
嘱託職員　西家　純一

家畜衛生部（TEL　086-232-8442）
（FAX　086-234-6031）

部　　長　大塚　武宣（兼務）
審 議 役　貝原　裕彰
参　　与　山本　幹男
参　　与　岡田　耕平
臨時職員　西林　由子

家畜衛生管理センター
（TEL　0876-27-3101）
（FAX　0867-27-3102）

臨時職員　佐々木　太
臨時職員　岡田　　保

生乳検査センター
（TEL　0868-54-7366）
（FAX　0868-54-7368）

所　　長　小田　頼政
審 議 役　宇谷　　修
技　　師　村上　恭子
嘱託職員　本田　正司
嘱託職員　藤堂ゆみ恵
嘱託職員　池田　祥子
臨時職員　安藤　智子

岡山県畜産関係各種協議会名簿一覧

（平成30年4月1日現在）

名　　称	会　長	事　務　局
岡山県家畜人工授精師協会	狩谷　和宏	岡山県畜産課
岡山県酪農乳業協会	東山　　基	おかやま酪農業協同組合
岡山県産牛肉銘柄推進協議会	藤原　雅人	全農岡山県本部畜産部
岡山県産豚肉消費促進協議会	藤原　雅人	全農岡山県本部畜産部
岡山県養鶏協会	安原　健二	烏城養鶏農業協同組合
岡山県ふ卵協会	山上祐一郎	烏城養鶏農業協同組合
岡山県装削蹄師会	平井　計行	岡山県農業共済組合連合会
岡山県養蜂組合連合会	鈴木　康正	鈴木養蜂場
岡山県和牛子牛資質向上対策協議会	川崎　敦史	岡山県畜産協会
岡山県畜産経営総合支援協議会	川崎　敦史	岡山県畜産協会
岡山県馬事畜産振興協議会	柴田　範彦	岡山県畜産協会
岡山県養豚振興協会	石原　正敬	岡山県畜産協会
岡山県コントラクター協議会	石原　聖康	岡山県畜産協会

〔お知らせ〕

肉用牛肥育経営安定特別対策事業の補填率が平成30年度、８割から９割に引き上げられます

１　事業の目的

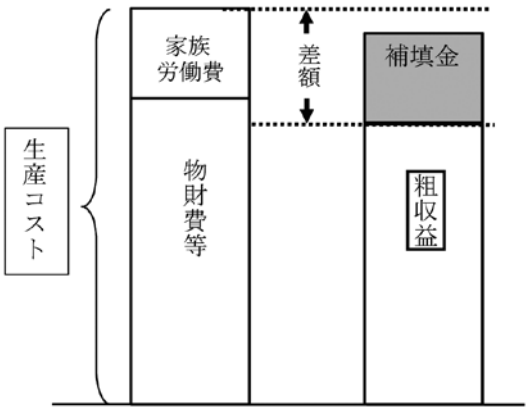
粗収益が生産コストを下回った場合に、差額の一部を補填することにより、肉用牛肥育経営の安定を図る。

２　事業の内容

粗収益が生産コストを下回った場合に、生産者と国の積立金から差額の９割(※)を補填金として交付する。また、一部の県において地域算定を実施する。

(1) 積立割合　　生産者：国＝１：３
(2) 事業実施期間　　平成28～30年度（３年間）
(3) 補填金　　１頭当たりの粗収益と生産コストの差額の９割
(4) 対象品種　　肉専用種、交雑種、乳用種（３区分）
(5) 対象者　　肥育牛生産者

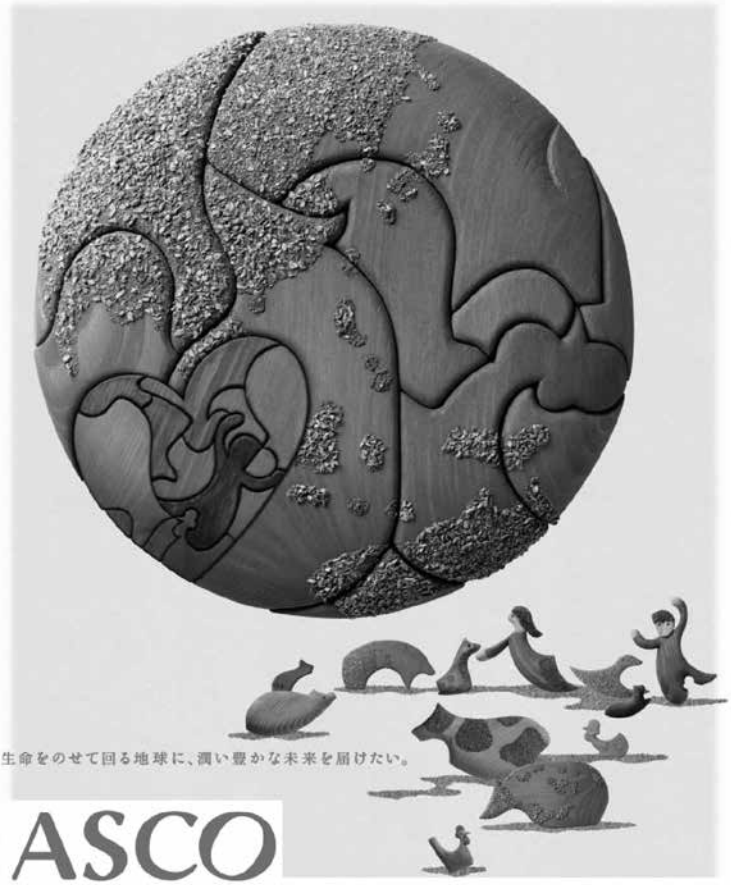
※子牛価格の高騰により、肉用牛肥育経営の収支が大幅に悪化することが見込まれる状況にあるため、平成30年度に限って補填率を９割として実施。



粗収益が生産コストを下回った場合に積立金（生産者：国＝１：３）から差額の９割を補填

（注）原則として四半期ごと（当面は月ごと）に算定

◎一部の県において地域算定を実施



株式会社 アスコ
http://www.asco.sala.jp

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本 社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

営業所
所在地

・東日本支店
児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
東京、大宮、宮城、福島

・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋

・西日本支店
広島、福山、山口、米子、岡山
大阪、京都

メディパルグループ

MPアグロは
「安全・安心・安定供給」
を追求します

●安全な畜水産物の生産をサポートし、
獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)3450

岡山支店 〒709－2122 岡山市北区御津吉尾1－1
TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
東京本部・岡山オフィス・福岡オフィス
札幌・函館・旭川・帯広・北見・釧路・東京・青森・秋田・盛岡・山形・仙台
岡山・広島・山口・鳥取・島根・松山・宇和島・高松・徳島・大阪第一・大阪第二・兵庫
福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・御津物流センター・福岡物流センター
AHSC西日本・AHSC九州

＊AHSCはアニマルヘルスサポートセンターの略称です

高 知 競 馬 開 催 案 内

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

5　月								6　月							
開催日			備　考	開催日			備　考	開催日			備　考	開催日			備　考
1	火			17	木			1	金			17	日	○	ナイター
2	水			18	金			2	土	○	ナイター	18	月		
3	木	○	憲法記念日 ナイター	19	土			3	日	○	ナイター	19	火		
4	金	みどりの日		20	日			4	月			20	水		
5	土	子どもの日		21	月			5	火			21	木		
6	日	○	ナイター	22	火			6	水			22	金		
7	月			23	水			7	木			23	土	○	ナイター
8	火			24	木			8	金			24	日	○	ナイター
9	水			25	金			9	土	○	ナイター	25	月		
10	木			26	土	○	ナイター	10	日	○	ナイター	26	火		
11	金			27	日	○	ナイター	11	月			27	水		
12	土	○	ナイター	28	月			12	火			28	木		
13	日	○	ナイター	29	火			13	水			29	金		
14	月			30	水			14	木			30	土	○	ナイター
15	火			31	木			15	金						
16	水			ナイター（15:30～20:50）				16	土	○	ナイター	ナイター（15:30～20:50）			

ホ ッ ト ニ ュ ー ス

岡山県馬事畜産振興協議会（事務局　岡山県畜産協会）は、平成30年３月６日（火）に高知競馬場において、「岡山県吉備の温羅特別」競走を開催しました。

レースは、第7R、サラ系で、ゴッドツェッペリン号（騎手　別府真衣、馬主　石川幸司）が大差で勝利しました。馬主や騎手の皆さんに『おかやま和牛肉』を贈呈し、大変喜んで頂きました。

あとがき

今春、近くの山畑では、例年になく桜と桃が一斉に開花し、まさに百花繚乱の見事な景色を見せてくれた。畜産業界も本年度こそ華々しく成長を遂げたいところであるが、米国･中国による関税制裁の応酬で貿易摩擦の影響が否めない。

そこで当協会では、畜産農家の経営安定に向けて以下のような新規事業に取り組みたい。

①和牛の飼育希望者を対象とした入門講座、経験の浅い人を対象としたスキルアップ研修及び経営診断。②働き方改革を加速するために、搾乳ロボット等の省力化機械の導入とそれに伴う施設整備。③畜産女性の経営参画支援。④日本型畜産のGAP認証の推進。⑤牛ウイルス性下痢･粘膜病対策として持続感染牛の摘発や淘汰の支援。などである。

また従来通り、経営改善、６次化商品開発、環境対策、生乳検査などについても、要望に応えていきたいと考えている。

本年度も職員一丸となって頑張る所存でありますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いしたい。　（N･S）

岡山畜産便り　4月号（春季号）

第69巻　第3号（通巻674号）
平成30年4月25日発行
定価250円（消費税･送料含）

発行人　樋口義男　　編集人　柴田範彦
発行所　**一般社団法人　岡山県畜産協会**
〒700-0826　岡山市北区磨屋町9-18　岡山県農業会館5階
TEL 086－222－8575　FAX 086－234－6031
印刷所　ノーイン株式会社

岸化学グループ

株式会社　正和

代表取締役　岸　小三郎

岡山本社	〒712-8055	岡山県倉敷市南畝1丁目13番1号	TEL 086（450）3807 FAX 086（450）4008
広島事業所	〒738-0513	広島県佐伯区湯来町大字伏谷字今山137番58	TEL 0829（40）5177 FAX 0829（40）5178
福山事業所	〒729-3102	広島県福山市新市町相方1089-19	TEL 0847（54）2007 FAX 0847（54）2008
鳥取事業所	〒680-0906	鳥取県鳥取市港町51番地	TEL 0857（50）1736 FAX 0857（50）1738
津山事業所	〒708-1544	岡山県久米郡美咲町周佐1377-4	TEL 0868（62）1232 FAX 0868（62）1233

取扱品目

- 死亡牛・死亡豚他の処理
- 有機性汚泥
- 廃食油
- 動植物性残渣
- 医療廃棄物

取扱品目のあらまし

動物用ワクチン･血清類一切,獣医畜産用薬品全般

家畜･家禽の飼料添加剤各種,獣医畜産用器具機械類

衛生材料（ガーゼ･脱脂綿･繃帯･その他）

土壌関係検査測定器具･試薬

JYUCHIKU Co. Ltd.

株式会社 ジュウチク

岡山市北区奉還町4-4-11 岡獣ビル内　TEL 086-214-2288
FAX 086-214-2287

岡山畜産だより　平成三十年四月号（春季号）
（第六十九巻第3号通巻六七四号）
平成30年4月25日発行
岡山市北区磨屋町九―十八　岡山県農業会館
発行所　岡山県畜産協会
定価　一部　二五〇円（送料共）
年間　一五〇〇円（送料共）